

書名		新編 新しい社会 公民	2 東 書
項目			
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○権利や義務、ルールの役割等について身近な事例をもとに学ぶようになっている。本文・資料・コラムなどにより民主主義の仕組みを理解し、学習内容を深めるようになっている。 ○「対立と合意」「効率と公正」の概念を身近な事例を取り上げ、丁寧に解説している。 ○身近な話題や現代の社会事象について短時間で取り組める言語活動を設け、思考力・判断力・表現力を育成するようになっている。 ○領土をめぐる問題や地球環境問題など我が国や国際社会が抱える課題の解決に向けて、その取組を考えたり、持続可能な社会の実現について探求したりするようになっている。 	
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの初めに示す「学習課題」に対し、最後にまとめを行う「確認」を設け、学習内容を確実に定着させるようにしている。また、社会的事象や資料の見方を学習する「公民にチャレンジ」や「効率と公正」マークを設け、知識や技能の定着を図るようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○政治分野の導入部「だれを市長に選ぶべき？」や経済分野の導入部「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」の学習でシミュレーションを取り入れ、思考力・判断力を高められるよう工夫されている。 ○各単元の最後に「ちがいのちがいを追究しよう」「X市の市長選挙に立候補しよう」「コンビニのお弁当を企画しよう」等の課題を設けることで表現力等の育成を図っている。また、各章に対立と合意等について、効率・公正の見方や考え方を活用して考える課題を設けている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文の内容に関して「公民にアクセス」や「インタビューコラム」を掲載することにより、興味・関心を高めるようにしている。また、学習内容に関わる内容を「公民にチャレンジ」で取り上げることにより、主体的に学習を進めるようになっている。 ○「深めよう」では、各国や各都市の取り組みを扱い、国や地方の課題に生徒が意欲的に考える工夫がされている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「公民にアクセス」の中で「ハンセン病と人権」や「高齢者の人権と生活保障」等の個人の尊厳や生徒の日常生活に関連する人権の尊重について考えるようになっている。 ○「深めよう」では、歴史や地理での学習内容を踏まえ「アイヌ民族と先住民族の権利」について考え、オーストラリアのアボリジニなどの例も見ながら国際的な権利保障の視点からも学ぶようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の学習を、興味・関心を持たせる導入部→学習を進める展開部→章の学習をまとめる終結部という流れで構造化し、知識や概念が習得できるようになっている。また、導入部と終結部の教材に関連性をもたせることで、章の学習の流れを明確化し、学習の成果を終結部で活用しやすくしている。 ○分野関連マークによって、地理や歴史で学んだ事を意識しながら学習に取り組む事ができる。 	
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○A B判のサイズを活用し、資料を掲載している。三分野の関連の深い、グラフ・資料等には関連がわかるマークが付されている。 ○巻末の「参考法令集」では、憲法・法律等を掲載し、日本国憲法の難しい語句に側注で解説を付けている。また、巻末に「用語解説」を設け、難しい用語の解説を掲載している。 ○それぞれのページの学習内容に合った写真、表、読み物、グラフなどを配置している。また、学習の深化を図るために「公民にチャレンジ」を設けている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で重要語句は太字で示し、側注で語句を解説している。また学習課題を明示している。 ○活動や課題は各種のマークで示されていて、活動等に取り組むようになっている。また、関連事項が分かるように、本文に「→p○○」と書かれている。 ○資料には見開きごとのまとめ、通し番号を付け、対応する本文の上に該当の番号を付している。 		
総 括	<p>紙面はA B判である。学習課題に対して、本文、資料等によって基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、「確認」等でそれらを定着させるようにしている。また個人やグループで行う作業や活動をまとめた「公民にチャレンジ」や調査学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能を身に付ける「調査の達人」、本文中の内容を詳しく説明したり、関連する内容を取り上げたりする「公民にアクセス」といったコーナーを設けることで学習内容を深め、主体的に学習を進めるようになっている。</p>		

社会科（公民的分野）調査資料 1-2

書名		中学社会 公民 とともに生きる 1.7 教 出	
項目			
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事例をもとに権利や義務、ルール等について理解させ、本文・資料・コラムなどの読み物によって、民主主義の仕組みについて考えを深めるようになっている。 ○現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として「対立と合意」「効率と公正」の概念を身近な事例を取り上げながら丁寧に解説している。 ○現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的に考察するようになっている。今日的課題について考え表現するようになっている。 ○他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うとともに「未来への私の約束」レポートを作成し持続可能な多文化共生社会の形成に参画しようとする態度を養うようになっている。 	
特 内 容	色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習展開の初めに示す「学習課題」に対応し、見開きの学習のまとめを行う「ふりかえる」によって学習内容の定着を図るようになっている。また、「言葉で伝え合おう」「読み解こう」を設定し、資料活用の技能を高めるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「監視カメラ設置」「裁判員制度」等のテーマで話し合い、ディベート、シミュレーション、プレゼンテーション等の活動を通して思考力が育成できるように工夫されている。 ○各時間の「ふりかえる」において（○○を説明しよう）という課題に取り組むことで表現力が育成できるようになっている。また、各単元の最後にある「学習のまとめと表現」には「自分の意見を書く」等の設問があり、学習内容を深めるとともに表現力を高める工夫がされている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を追求するための資料や「見てみよう」で解説文を提示することで、主体的に学習進めるようになっている。「公民の窓」「読んで深く考えよう」では、身近で具体的な事例によって興味・関心を高めるようになっている。 ○「言葉で伝え合おう」では、プレゼンテーションやレポートの作成の過程が分かりやすく書かれていて、より関心を深める工夫がされている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見てみよう」や「公民の窓」では、生徒が身近に感じる「有害情報の規制か、表現の自由か」、「プロ野球でもストライキ」等の題材を通して人権について考えるようになっている。 ○「読んで深く考えよう」の中では、「ともに生きる社会を目指す人たち」を取り上げ、個人の尊厳と人権の尊重について探究するようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の授業を見開き2ページで構成し、学習の導入または中心となる資料を配置し、挿絵の人物の問いから学習が展開されていく形式となっている。タイトルには学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習内容を示す副題を置き、学習課題を明示することで、課題意識をもって学習に取り組めるようになっている。授業のまとめでは課題に対する答えとして、二つのステップでの振り返りが設けられている。 	
資 料		<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「公民にアプローチ」では、新聞の活用の仕方が掲載されている。また、学習を深化させるための学習コラムが適宜掲載されている。 ○巻末の「日本国憲法」「諸法令集」では、憲法・法律等を掲載し、日本国憲法の難しい語句に側注で解説を付けている。また、「用語解説」を設け、難しい用語の解説を掲載している。 ○見開きで、左のページに導入資料・中心資料を掲載し、それぞれのページの学習内容に合った写真、表、読み物、グラフなどが配置されている。 	
表記・表現		<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で、重要語句は太字で示されている。本文の難解な用語や補足説明の必要な箇所には、側注に解説を設けている。 ○本文中には、資料との関連を示す番号が付され、前出・後出箇所との関連を示す参照ページが「p ○○」の形で示されている。 ○見開きの左ページに学習課題が明示され、学習課題に対応した「ふりかえる」では、学習内容の確認と活用の2段階のステップも設けている。 	
総 括		<p>紙面はA B判である。はじめに「公民の学習を始めるにあたって」の中で公民で学ぶ内容、学び方、公民のノートづくりについて示されている。挿絵の人物を通じた発問などを示して興味や関心を高め、学習課題へ迫るために、きっかけとなる資料を「見てみよう」の解説文とともに紹介している。学習内容に関連するコラム「公民の窓」や学習内容を深化させるための「読み解こう」「ふりかえる」では生徒が課題意識をもって取り組み、思考力等を高めるようになっている。</p>	

書名		35
項目	中学 公民 日本の社会と世界	清水
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義については、具体的な事例を用いて今日的な課題に気づかせ、考え方やしくみを学べるようになっている。 ○各ページで現代社会の今日的課題等について問いかけをすることで、学習のねらいを明確にし興味・関心を高め、考えたり表現させたりして見方や考え方を養うようにしている。 ○地球規模の課題の解決と国際社会全体の平和について、生徒が主体的に取り組むようになっている。 ○未来を切り拓く持続可能な社会の形成については、身近な生活に即した題材を取り上げ、日常生活に深いつながりがあることを学ぶようになっている。 	
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りや側注の補助説明によって、事象への理解が進み、学習内容が定着するようになっている。また、「深める公民」「もっと知りたい公民」は基礎的・基本的な知識や資料活用技能の育成を図る内容になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○欄外の「調査」で（～について考えてみよう）（～を調べてみよう）等の課題が設定されており、その課題に取り組むことで思考力等を育成できるように工夫されている。 ○「対立と合意」等については、序章の「私たちと現代社会」の中で、身近な例が提示されており、解決策を考えることで現代社会の見方や考え方にそって考察できるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入部では、扉ページに学習内容に関する人物の活動等を取り上げたり、テーマを提示し、それに対して問いかけを行ったりすることで、興味・関心を高め、主体的に学習を進めるようになっている。 ○「深める公民」では、各課題についてどう解決したらいいかといった、興味・関心を高め調べ学習ができる工夫がされている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「深める公民」の中で、冤罪とそれを防ぐものとしての憲法の役割に触れ、再審によって無罪になった事例を通じて、人権の尊重の大切さを学ぶようになっている。 ○「もっと知りたい公民」の中で、「知っておきたい労働者の権利」を通して身近な例から労働者の人権について考えるようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き2ページで1時間の授業が展開できるように設定し、導入部として「目標」マークで生徒への具体的な問いかけから各単元の学習の課題が把握できるようになっている。また細かな解説や補足が必要と思われる箇所には、注を設けて説明し、本文と色を分けて見やすい工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末には憲法、法令、条約などを掲載しており、日本国憲法では、用語の解説がある。また「現代社会のうごき」を年表としてまとめている。 ○学習内容を深めたり、探究したりするための資料として「深める公民」・「もっと知りたい公民」を掲載している。 ○それぞれの本文中のページの学習内容に関連している写真、表、読み物、グラフなどを配置した構成になっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で、重要語句は太字で示し、側注で語句の解説をしている。見開きページには学習目標が書かれている。 ○「知識」のマークでは、本文に関連する事柄について、資料や条文などの具体的な内容を示している。 ○活動や課題を各種のマークで示しており、活動等に取り組むようになっている。本文に「→p○ ○」と書かれ、関連事項が分かるようになっている。 	
総 括	<p>紙面はB判である。各編の最初に、学習内容に関連する人物の言葉を掲載している。特設ページ「もっと知りたい公民」では、学習内容に関連するテーマを図版や写真を用いて解説している。また、学習内容の深化を図るため「深める公民」を設けている。本文中には学習目標や補足説明を記号で示し、学習内容の確認ができるようになっている。最終章の最後に地理、歴史、公民的分野のまとめとして、「もっと知りたい公民」の中で「卒業論文を書いてみよう」という課題ページを設けている。</p>	

社会科（公民的分野）調査資料 1－4

書名		社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして	46 帝国
項目			
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義についてその意義を部の学習の最初に取り上げ以降の学習に生かせるように構成されている。身近な事例や現実の社会の動きから学べるようになっている。 ○「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方を全編で重視し、さまざまな場面で考えられるように構成されている。 ○国際社会における諸課題について、解決に向けた方法を考えたり、国際協力の必要性を考えたりできるようになっている。 ○発展途上国の教育についてのレポート作成を例に、主体的に持続可能な社会の形成に参画する態度を養うようになっている。 		
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題に対して、「確認しよう」「説明しよう」を設け、学習した基礎的・基本的な内容を理解できたか確認するようになっている。また、「トライアル公民」では、知識・技能の習得を図れるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○経済の学習では単元を通じて「パン屋の経営者になってみよう」という課題が設定されている。11項目の課題と「パン屋の企画書を修正しよう」に取り組み、経営上次々と起きる問題点を自分のこととして意思決定することで、思考力等の育成を図っている。 ○各時間ごとに「説明しよう」という課題が設定されており、その課題に取り組むことで思考力・表現力の育成ができるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの最初に「クローズアップ」で具体事例を配置することで、興味・関心を喚起し、主体的に学習を進めるようになっている。また、実社会で活躍する人の生の声を掲載することで臨場感をもって学習できるようになっている。 ○「トライアル公民」では、現代の様々な課題について、生徒が自主的に調べられるよう工夫がされている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「人権」のコラムでは、「タレントにもプライバシーはある？」や「インターネットと人権」など生徒にとって身近な視点から人権について考えるようになっている。 ○「クローズアップ」ではハンセン病問題の解決に向けた取組の一つとして「ハンセン病療養所に保育園」を紹介し、個人の尊厳や人権の尊重について考えるようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの最初に、学習内容に関連した具体事例を紹介し、学習内容への関心を高める工夫がされている。本文や資料での学習を踏まえ、見開きの最後に学習内容や本文などから確認する作業や説明する作業を設定し、知識を定着や表現力を高めるきっかけも示されている。 		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には「世界で活躍する日本人」を掲載し、巻末には、身近な出来事と結び付いた憲法・法律・条約等が掲載されており、憲法には用語の解説を設けている。 ○各部の初めに身近な出来事と結び付いたイラストや資料からの読み取り作業を行うページも設けている。 ○見開きの「クローズアップ」では、学習内容に係る実社会の動きを取り上げた導入資料の「声」において、実社会で活躍する人々の声が掲載されている。 		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で、重要語句は太字で示され、側注には語句の解説や補足説明がされ、また地理的分野・歴史的分野との関連用語が掲載されている。 ○本文中には、資料との関連を示す番号が付され、前出・後出箇所との関連を示す参照ページが「→p○○」の形で示されている。 ○見開きの左ページに学習課題を明示し、ふりかえりとして「確認しよう」、学習の深化として「説明しよう」を設けている。 		
総 括	<p>紙面はA B判である。巻頭では公民的分野の学習について「年齢に応じてできること」や「夢に向かって」で示している。各部の始めに「学習の前に」を示し、学習内容についてイラストや写真を見ながら身近な出来事と結び付けて考えさせている。未来の社会をつくるために参考になる取組を紹介するコラムには「羅針盤マーク」がついており、少子高齢化、情報化等について紹介されている。授業の後に活用する「確認しよう」「説明しよう」では基礎・基本の定着と言語活動の充実を図っている。</p>		

書名		116 日 文
項目	中学社会 公民的分野	
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事例をもとに権利や義務について認識させるようになっている。本文・資料・イラスト等を活用して民主主義の考え方、さまざまな仕組みを学ぶようになっている。 ○「対立と合意」「効率と公正」の概念を身近な事例を取り上げ丁寧に解説している。 ○現代社会の今日的課題について自ら考える作業学習があり、まとめの学習で表現力等の育成を図っている。 ○国際社会への貢献に関する日本の長を取り上げ、日本が世界に提供できる価値を提示している。レポートの課題例を5つ示すなど、丁寧に解説し、持続可能な社会を築くために、主体的に現代社会に参画する意欲を養うようになっている。 	
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習課題」に対して、最後の「学習の確認と活用」で知識の習得と活用を図るようになっている。また、「情報スキルアップ」で取り組みやすい作業を交えることで、情報の集め方、読み取り方、伝え方、活用の仕方などの技能の育成が図れるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時間ごとに設定されている「学習の確認と活用」において、「活用」では（～を説明しよう）（～を考えてみよう）という課題が設定されている。この課題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成ができるようになっている。 ○各章末に「チャレンジ公民」のページが設けられており、対立と合意等の見方や考え方を扱い、様々な学習方法で思考力等が高められるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各編冒頭に「ナビ」というコーナーを設け、何をどのように学習するのかがイラストや新聞記事を用いて説明されており、編の学習内容を大きく捉え、関心・意欲をもって主体的に学習を進めるようになっている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「公民プラスα」では、「ハンセン病」や「児童（子ども）の権利条約」を取り上げ、個人の尊厳と人権の尊重について考えるようになっている。 ○「明日に向かって」では、15歳は「子ども」？それとも「大人」？で権利や義務について考え、裁判員シミュレーションや年金シミュレーションでは、将来関わっていく政治制度や仕組みについて考える事ができるようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各編冒頭に、各編のポイントを親しみやすいイラストと新聞記事で考える「ナビ」を設けており、学習内容を広い視野から大きくとらえるとともに、関心と意欲がもてるようにしている。各編・章末の「チャレンジ公民」では、ディベートやロールプレイなど習得した知識と見方や考え方を活用する課題を設けている。 	
色		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に法令集があり、日本国憲法には用語解説を付し、類似用語集も設けている。また、「残していきたい日本の風景」では、世界遺産を含む日本の景観が紹介されている。 ○本文に関連して、「公民プラスα」、「アクティビティ」、「言語活動コーナー」などの資料が掲載され、学習の深化を図ることができる。 ○「情報スキルアップ」では、資料をどのように活用すればよいのかを説明している。また、連携コーナーを本文中の脚注に設け、小学校や三分野の関連を示している。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で、重要語句は太字で示され、側注では語句の解説や補足説明がされている。また、学習箇所的位置を確かめながら学習できる「インデックス」を付している。 ○見開きの左ページに学習課題が明示され、学習課題に対応した振り返りとして、「学習の確認と活用」を設けている。 ○本文中には資料との関連を示す番号が付され、前出・後出箇所との関連を示す参照ページが「→p○○」の形で示されている。 	
総 括	<p>紙面はA B判である。各編の始めに導入ページがあり、編の学習の基礎となる考え方を示している。本文中には導入資料とそれに関係する問いかけを設け、学習課題につなげている。言語活動のコーナー「読み取ろう」「考えよう」「伝えよう」では図版の内容を読み取ったり、読み取ったことをもとに思考・判断・表現したりする活動を示している。また、「チャレンジ公民」や「公民プラスα」などの特設ページやコラムを設け、学習内容の深化を図っている。</p>	

項目	書名 <h2 style="text-align: center;">新しい公民教科書</h2> <p style="text-align: right;">225 自由社</p>
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会について歴史的分野と関連付けながら諸資料を活用して学べるようになっている。立憲的民主主義に関する考えや仕組みについて、歴史的背景を踏まえながら理解することができるようになっている。 ○「対立と合意」「効率と公正」の考え方を全編を通して、事例を変えて繰り返し扱い、見方や考え方を養うようになっている。 ○現代社会の特色や直面している課題について「ミニ知識」や「もっと知りたい」などの資料によって、深く考え、発展的に学べるようになっている。 ○国際社会に生きる日本について、安全と平和、国際貢献と国際協力等の事例を用いて学び、持続可能な社会の形成について、レポートやディベートによって課題を探究するようになっている。
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の最後に「学習のまとめと発展」を設け、最重要語句を確認することにより、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るようになっている。また、見開きページごとに「ここがポイント！」を設け、要点をまとめている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元末の「学習のまとめと発展」の中に「複数の課題からひとつ選び、400字でまとめる」という課題が設定されている。これに取り組むことで思考力等が育成できるようになっている。 ○教科書欄外の「ミニ知識」などを中心に「対立と合意」等の考え方を繰り返し扱うことで、思考力等を育てるようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「もっと知りたい」を設け、興味・関心に応じて学習内容を深め、主体的に学習を進めるようになっている。また、「ここがポイント！」を見開きページごとに設けることで、自主学习を進めやすくなっている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「もっと知りたい」の中で、「日本人拉致問題」を学習することで、個人の尊厳や人権の尊重の意義について考えるようになっている。 ○「ミニ知識」の中で、各国の政治制度について学習する事で、日本の政治制度についての理解を深めさせる事ができるようになっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的学習から系統的な反復学習についての構成が工夫されている。国家についての学習では一度にすべてを学ぶのではなく、人類の誕生の歴史を背景にして誕生したばかりの状態の国家から、漸次国家の役割が増え、最後は国民に権利を保障し平等な立場で政治に参加する国民国家に発展していくように配置されている。
色	<p>○巻頭には「すごいぞ日本の技術は」で世界に誇る先端技術の特集が組まれており、巻末には法令集がある。</p> <p>○巻末「わが国の領域」では、地図や写真を掲載し、生徒が領土について興味・関心をもてるようになっている。</p> <p>○巻頭の「学習を深めるために」では、「ミニ知識」、「紹介する主な人物が」一覧になっている。学習課題の解決に向け、写真・図・グラフ・統計資料等が配置されている。</p>
資 料	<p>○文体は敬体で、重要語句は太字で示している。本文中で難解な用語には、側注に語句の解説を設けている。</p> <p>○見開き左ページに学習課題を明示している。また、「ここがポイント！」では、学習内容の要点が掲載されている。</p> <p>○本文に「→p○○」と書かれ、関連事項が分かるようになっている。また、側注に「ミニ知識」として補足説明が掲載されている。</p>
表記・表現	<p>○文体は敬体で、重要語句は太字で示している。本文中で難解な用語には、側注に語句の解説を設けている。</p> <p>○見開き左ページに学習課題を明示している。また、「ここがポイント！」では、学習内容の要点が掲載されている。</p> <p>○本文に「→p○○」と書かれ、関連事項が分かるようになっている。また、側注に「ミニ知識」として補足説明が掲載されている。</p>
総 括	<p>紙面はB判である。各単元の重要語句は太字になっており、すべて巻末の索引に登録されている。また、各章の最後にある「学習のまとめと発展」では、各単元の最重要語句を掲示し、基礎・基本の定着が図れるようになっている。「もっと知りたい」では、写真や図表を示し、学習内容の深化を図っている。「ミニ知識」では、本文で学習する内容の補充ができるようになっている。さらに、これらの基礎的・基本的な知識を活用するために言語活動を設け、表現力を高めるようになっている。</p>

書名		[新編]新しいみんなの公民	227 育鵬社
項目			
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○今日的な事例をもとに権利や義務等について学ぶようになっている。 ○「対立と合意」「効率と公正」の概念を身近な事例を取り上げながら解説したり、各章のまとめで繰り返し考えさせたりして、見方や考え方を学ぶようになっている。 ○現代社会についての課題を、本文と資料、豊富な新聞記事等を通して、多面的・多角的に考察できるようにになっている。また学習内容を深める課題が示され、表現力等を育むようになっている。 ○国際社会の諸課題について、国家間の主権の尊重や国際協調を認識し、我が国の果たす役割などについて考えるようになっている。 ○持続可能な社会の形成について、解決すべき課題を探求し、自分の考えをまとめるようになっている。 		
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの初めに学習課題を示し、章末の「学習のまとめ」で重要語句を確認し、図の中に語句を書き入れるワークシートにより、知識を習得できるようになっている。「やってみよう」によって資料の比較や調査の仕方等の技能の習得を図っている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの単元の終わりには「やってみよう」という課題が設定されている。既習事項をもとにディベート・模擬裁判・話し合い等を行うことで、思考力等の育成が図れるようになっている。 ○章末の「学習のまとめ」において「対立と合意」等に関する課題が設定されている。その課題に取り組むことで思考力等を育成できるように工夫されている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の導入に「入り口」を章の学習内容を捉えさせる言語活動を設け、各章の学習内容に対して興味・関心を高めようとしている。また、「理解を深めよう」や「考えよう」で、本と関連する内容について、個々の関心・意欲に応じて主体的学習を進めるようになっている。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「理解を深めよう」では、「少年法」や「ネット社会」とつき合うために等の題材を通して、身近な視点から個人の尊厳や人権の尊重について考えるようになっている。 ○「考えよう」の中で、「男女の平等と家族の価値」や「だれにも迷惑をかけなければ何をしてもいい？」など身近な例から人権について考えるような構成になっている。 <p><国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心を喚起する導入資料とそれに関連する挿絵の人物のフキダシで課題を確認させ、物事の因果関係を丁寧に述べた本文と図版・写真資料などを掲載している。 ○学習内容を確実に定着させるように、学習のまとめを設け、見開きで学習内容が理解できているか確認したり学習内容を深めたりする課題を自分の言葉で表現するという形で提示している。 		
色			
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には「私たちを取り巻く課題」、「世界で活躍する日本人」が掲載され、他人事を自分事としてとらえるための資料として「自分の過去・現在・未来シート」を設けている。 ○巻末の「学習資料」では日本国憲法のほか、関係する法令集や調査活動の際に活用できるウェブサイトが掲載されている。 ○第2章以降では、章ごとに学習内容の入り口となる導入資料が、章の最初に提示されている。また、それぞれのページの学習内容に合った写真、表、読み物、グラフなどが配置されている。 		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は敬体で、重要語句は太字で示され、側注では語句の解説や補足説明がされている。ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取れるようになっている。 ○本文中には、資料との関連を示す番号が付され、前出・後出箇所との関連を示す参照ページが、「→p00」の形で示されている。 ○活動や課題は各種のマークで示されていて、課題解決に近づくための取組ができるようになっている。 		
総 括	<p>紙面はA B判である。最初に「なぜ『公民』を学ぶのか？」が掲載されている。「人生モノサシ」では、自分の将来設計について考えさせている。各章にある「やってみよう」や「理解を深めよう」では学習内容を深化させるための調べ学習を行うための資料が掲載されている。各章のまとめでは「学習のまとめ」を設置し、重要語句や基本事項の確認ができるようになっている。各章の導入に、学習内容の趣旨をとらえさせる言語活動の見開きを設け、学習内容への興味・関心を促すようになっている。</p>		